

# 魔法の言葉 活動報告書

報告者氏名： 徳永 みき 所属： 鹿屋市立寿小学校 記録日： 平成29年 2月3日

## 【対象児の情報】

### ○学年

小学6年生・特別支援学級（知的障害）在籍

### ○障害名

軽度知的障害

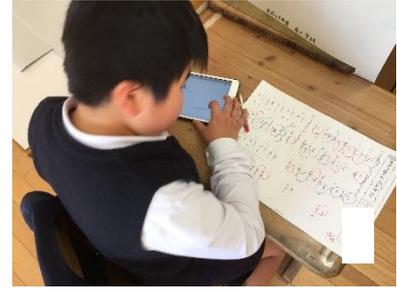
### ○障害と困難の内容

#### <生活面>

- ・友達とのコミュニケーションが苦手です。トラブルを起こしやすい。
- ・すべての面で自信がなく、分からなかったり、できなかったりすると、気分が低迷してしまう。

#### <学習面>

- ・漢字に対する苦手感が強い。現在、2, 3年生の漢字を学習中。漢字学習の際に、予測変換機能を用いて漢字調べを行うと8割程度の漢字を選んで書くことができる。
- ・漢字に振り仮名がついていれば音読はすらすらできる。4年生程度の物語文の内容の文章を理解できる。しかし、説明文になると、語彙力不足のため理解できない内容が多くなる。
- ・文章を書くことは好きであるが、表現が幼い。会話中に分からない言葉があると「それどういう意味？」と質問し、理解しようとする姿勢がある。
- ・WISC-IIIでは、言語性が動作性を大きく下回り、有意差が認められる。



## 【活動目的】

### ○当初のねらい

- 1 できる自信を重ね、生活のリズムや生活習慣を形成する。
- 2 人に対する信頼感を保つことを基礎に、自己有用感を高める。
- 3 確認する方法を持つことで学習への意欲を持たせる。

### ○実施期間

平成29年5月～平成30年2月3日

### ○実施者

徳永 みき

### ○実施者と対象児の関係

特別支援学級（知的障害学級）担任

## 【活動内容と対象児の変化】

### ○対象児の事前の状況

#### <生活面>

- ・規則正しい生活習慣が確立しておらず、週明けから休みが続く。
- ・放課後は寝たり起きたりして、疲れやすく、生活にめりはりが無い。
- ・自宅は学校に近いが徒歩による通学を行ったことがほとんどない。（車で送り迎え。）
- ・昨年度、欠席が続き、自宅に寝ていることが多かったため、運動不足気味。運動することがあまり好きではない。
- ・学校に行く意味を見出せず、好きな授業がある日以外は学校に行きたがらない。

#### <学習面>

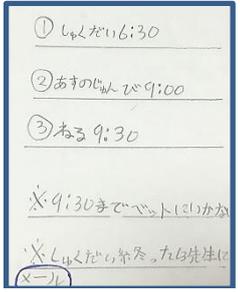
- ・昨年度は欠席が続いたため、学習が進められなかった。国語、算数は4年生の内容を学習中。

○活動の具体的な内容

1 できる自信を重ね、生活のリズムや生活習慣を形成するために。

(1) アシストスマホを用いた生活習慣の定着

自分でできるようにになりたいことを本人と確認し、アシストスマホを用いて取り組んだ。

目標	設定	具体的な取り組み
自分で起きる。	目覚ましアラーム 	本人、母親と相談の上、無理なく始められるように、平日7時15分にアラーム設定。
宿題・明日の準備を早めにする。	前期（6月～10月） メール機能（定型文送信、アシストメール）  メール内容 宿題をこれから始めます。 宿題が終わりました！ 明日の準備、終わりました。 おやすみなさい。	<ul style="list-style-type: none"> <li>宿題を始める時間、終わった時間、明日の準備が終わった時、担任に報告。寝る時間を早くするために8時までに宿題をスタートするように約束。</li> </ul>  実際に送られてきたメール
	後期（11月～） アラーム設定による自己管理  本人が決めたアラーム設定時間	<ul style="list-style-type: none"> <li>宿題を始める時間、明日の準備を始める時間、就寝する時間をアラーム設定。完了ボタンが押されると管理者にメールが届く。</li> </ul> 
準備を自分でできる	① 写真機能  ② 持ち物リスト	<ul style="list-style-type: none"> <li>週報を写真に撮り、それを見ながら自分で準備をする。</li> <li>特に忘れやすいものは、写真で一つずつ確認。</li> </ul>
宿題を自分の力でする	辞書機能 	① 日記の中で使いたい漢字を調べて書く。 ② 語彙力をつけるために、意味調べを1日1題。

2 人に対する信頼感を保つことを基礎に、自己有用感を高める。

(1) ストレスコントロールの本人なりの方法に気づかせていく。

- 「ストレスがかかった出来事を書き出す→人に伝える→サポートしてくれる人を増やす→何かあった時どうすればいいかイメージする」を教師とともに考え、いずれは自分だけで解決できるようにする。

- ・困難や苦手なことに直面してもなんとかしようとする、なんとかすることができる自信をつけさせるために、うまくいった経験を多く積みませ、それを人との関係も含めてノートに残す自分ノートを作る。



- (2) 低学年に勉強を教えることを通して、役割感を持たせ、学校に行く目的を持たせる。
  - ・支援学級での学習の中で、自分の課題が終わった後は、下の学年の先生役を務める。
  - ・苦手な漢字を、下学年に教える活動を通して、自信をつける。

### 3 確認する方法を持つことで学習への意欲を持たせる。

#### (1) 宿題において (アシストスマホ使用)

- ・日記では、辞書機能を使って、文章に漢字を使えるようにする。
- ・分からない言葉の意味調べを、辞書機能を使って1日1題行う。

#### (2) 授業において (ipad 使用)

- ・漢字の学習では、予測変換機能を用いて、正しい漢字が導き出せるようにする。
- ・読みを調べる時には、「漢字検索」と「筆順辞典」(アプリ)を用いて調べる。
- ・国語の読み取りの授業では、問題文を「もじかめ」(アプリ)でテキストデータ化し、「子どもテキスト」(アプリ)で、本人の自信のある2年生の漢字表記にし、ふりがなを自分で振らせることで、自分だけの力で問題が解ける自信を持たせる。

具体的な使用場面

漢字を書く時	アシストスマホ 明鏡国語辞典MX	<ul style="list-style-type: none"> <li>・家庭で日記を書く時</li> <li>・漢字テストのやり直しの時</li> </ul>
読み方を調べる時	漢字検索  筆順辞典	<ul style="list-style-type: none"> <li>・熟語が分からない時 </li> <li>・書き順が分からない漢字を調べる時 </li> </ul>
文章にルビを振る時	もじかめ  子どもテキスト	<ul style="list-style-type: none"> <li>・まとまった文章を読みたい時</li> <li>①  →テキスト化</li> <li>②  →3年生以上の漢字の読みを変換</li> </ul>

### ○対象児の事後の変化

#### 1 「できる自信を重ね、生活のリズムや生活習慣を形成するために。」について

##### ① 就寝時刻を改善しようとする意識の高まり

#### 就寝時刻を早くするために

	5月	6月	7月	9月	10月	12月
自分で	← 放課後スケジュール表の自己作成 →		← 就寝時刻の自己記録 →			
教師と	← アシストメールによる教師へのメール →			← 予定アラーム設定 →		
追加したこと						← 日中ベッドで遊ばなかったらご褒美シール →

ベッドの上で遊んで過ごす→昼寝をしてしまうんだ!



本人自身が改善しようとする意識させるために、まずはスケジュール表を自己作成することからスタートし、その後就寝時刻を記録させることで、その成果を実感できるように計画した。また、就寝時刻が遅くなってしまいう理由の一つに、ベッドの上で遊んで過ごすという習慣があることがわかってきたので、就寝するまでベッドにいかなかったらご褒美シールを貼ることを追加した。このような取り組みの中で、少しずつ就寝

時刻を改善しようとする意識が高まってきた。

<放課後スケジュール表の自己作成から>

5月に立てた放課後の過ごし方スケジュール

	月	火	水	木	金
14:00					
15:00					
16:00	自由	自由	自由	自由	自由
17:00	自由	自由	自由	自由	自由
18:00	自由	自由	自由	自由	自由
19:00	自由	自由	自由	自由	自由
20:00	自由	自由	自由	自由	自由
21:00	自由	自由	自由	自由	自由
22:00	自由	自由	自由	自由	自由
23:00	自由	自由	自由	自由	自由

9月に立てた放課後の過ごし方スケジュール

	月	火	水	木	金
15:00					
16:00	自由	自由	自由	自由	自由
17:00	自由	自由	自由	自由	自由
18:00	自由	自由	自由	自由	自由
19:00	自由	自由	自由	自由	自由
20:00	自由	自由	自由	自由	自由
21:00	自由	自由	自由	自由	自由
22:00	自由	自由	自由	自由	自由
23:00	自由	自由	自由	自由	自由

- 5月・・・就寝前に、仮眠（すいみん）をほとんど毎日1時間程度挟む予定を計画。
- 9月・・・仮眠（ねる）の計画の回数が減り、各時間も30分ほどに減っている。

- 5月・・・就寝時間目標（平均）9：20
- 9月・・・就寝時間目標（平均）8：45

→ 仮眠ではなく、就寝時間を早めようとする意識が高まりつつある

その結果・・・遅刻が減ってきた。

ただ、目標の就寝時間のため、実際の就寝時間は、宿題終了を知らせるメールから推測すると、まだ11時を過ぎることが多い実態がうかがえた。

<就寝時刻の自己記録より>

	10月	11月	12月
平均就寝時刻	11：14	10：16	10：36

自己記録シート

月末に教師と一緒に就寝時刻の平均を出していくことで、少しずつ就寝時刻が早くなってきた。ただ、宿題が合っているのか不安で、父親の帰りを待っている日は就寝時刻が遅くなりがちだった。

<教師への宿題終了メールより>

このような取り組みの中で、自分のことを自分で伝えることができるようになってきた。

エピソード①9月8日      エピソード②10月26日

一昨日 19:58

宿題スタート  
宿題をこれから始めます。

一昨日 21:14

宿題が終わりました！

今日 19:21

宿題  
徳永先生たぶんわいるたんぼにわすれたかました

ちゃんと伝えられたね。  
漢字がんばってね。終わったらまたメールちょうだいね。

宿題の入ったファイルを学校に忘れた事を自分から伝えられた。

Thu. 19:52

宿題スタート  
宿題をこれから始めます。

Thu. 19:35

宿題  
普通で調べてもでなからにゆうすてゆうやつでしらべ手も出ませんでした

Thu. 19:53

わかりました。がんばって調べる方法を考えたんだね。そのまま持ってきていいよ。

今日は早く宿題始められたね！

はい分かりました。

Thu. 20:37

がんばれ！今日は早く寝れるかな？

「先取点」の意味調べの宿題を自分なりに工夫したが、調べられなかった事を伝えられた。

エピソード①

ある日、宿題の入ったファイルを学校に忘れたことがあった。何か失敗すると気持ちが低迷するため、明日の登校を心配していたところ、メールが届いた。このメールの後に、電話がきて、「何か紙に漢字の練習をしてきていいですか」と自分で解決策を伝えることができた。

エピソード②

意味調べの宿題を出した時、いつも使っているアシストスマホの国語辞典で調べても、ニュースという検索

サイトでも調べられなかったということを手で伝えることができた。

## 2 「人に対する信頼感を保つことを基礎に、自己有用感を高める。」について

### ① 自己有用感（自信）の高まり

#### <担任の関わり方>

本人、保護者とも学校生活に不安を抱えたままの学年スタートだったため、まずは学校での居場所を保障することを約束し、何かあったら支援学級担任が全面的にサポートすることを約束した。友達とトラブルがあった時には、必ず話を支援学級担任が聞くようにし、どうやって気持ちを切り替えていくかを本人と相談しながら決めていった。

4月に交流学級で他の児童にばかにされるという事があり、時間をもらって、交流学級で話をさせてもらった。しかし、話をしてみると、ばかにしていた児童も悩みを抱えていたということがわかり、その子も含めて何かあった時には支援学級にも相談に来ていいということを確認した。このことが、本人の中では、何かあっても、先生がついているという気持ちを強くしたのではないかと感じている。

その後、中学校に向けて、一人でできるようになってほしいことを保護者と教育相談で話し合い、本人と一緒に少しずつ計画を立てていった。あくまでも自主性に任せる形にし、メール送信を忘れたり、就寝時刻が明らかに遅かったりする時にも強く注意をすることはせず、できた時だけ褒めるようにした。また、メタ認知を高めるために、自分の言動を客観的に捉えていくこと、どんな行動を取るべきか自分で考えられるようになること、解決するための見通しをつけていくことができるようになるために、困ったことが起こった時には、教師とともに整理していった。

#### <自分ノート作りを通して>



このような取り組みを通して、4月当初は、友達とトラブルがあった後、目を真っ赤にさせて座り込んでいたり、教室から飛び出していってしまったりすることが多かったのだが、自分ノートの作成を通して、自分でもなんとかできるという自信が少しずつついてきて、何かあった後でも「大丈夫」と答えることが多くなった。

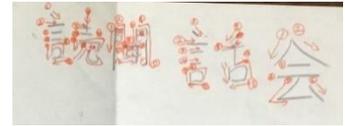
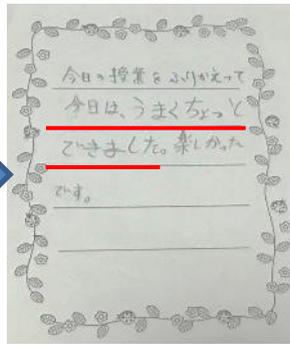
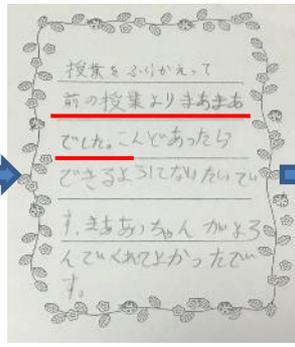
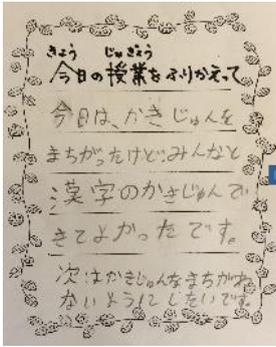
#### <低学年に教えて自信をつける>



漢字を教えている様子

読み聞かせをしている様子

漢字を教える活動を行った際、書き順を教え間違えて低学年児童に指摘されてしまった日があった。普段からお互いを認め合っている関係なので、みんなで笑い合っただけでその授業を終えたのだが、A児は、次に備えて書き順の練習をしていたらしく、書き順の練習をした紙が教室に残されていた。その後の授業の感想から、少しずつ自信をつけていっている様子がうかがえる。



こっそり練習していた書き順の紙

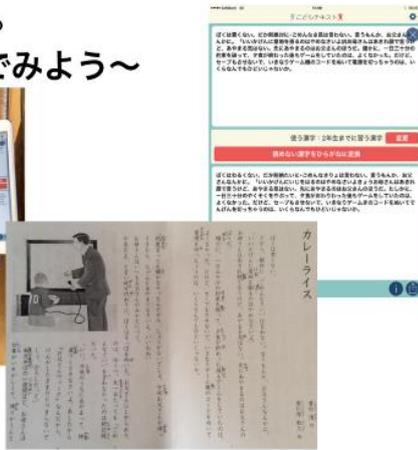
自分で解決しようとする気持ち

### 3 「確認する方法を持つことで学習への意欲を持たせる。」について

#### ① 6年生の教科書を読もうとする意欲

文章にルビを自分で打つ。

～6年生の教科書を読んでみよう～



アプリを用いて、漢字の送り仮名を自分で調べていくことができるようになり、国語の教科書の題材である「カレーライス」と、「時計の時間と心の時間」の音読と意味調べ、簡単な内容把握の学習に取り組むことができた。「6年生の教科書が読める。」というのは本人の大きな自信につながったようで、それにともない、社会の歴史の授業は、交流学級で熱心に学習するようになり、テストにもチャレンジした。

#### ② 漢字学習への意欲

(4月)



書いた漢字も消してしまおう。

(12月)



赤丸・・・自分で書けた字  
青丸・・・調べて書いた字

分からなければ、調べればよいということを確認し、漢字テストの際も、一度チャレンジしてから、分からなかったら調べて書くという学習を進めていったところ、4月当初は、書いた漢字もすぐ消してしまい、自信がないためなかなか提出できなかったが、とりあえず書いてみようという気持ちが生まれ、覚える段階から意欲を見せるようになってきた。

### 4 その他・中学校進学に向けての不安感を取り除くために

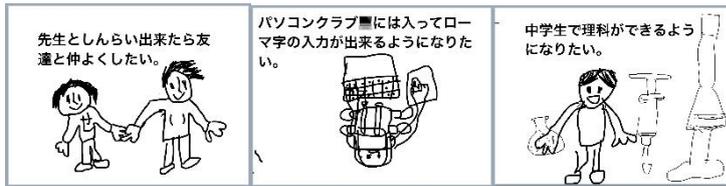
中学校進学への不安感を口にするのがあり、保護者からもそのことについて相談を受けていた。そこで、少しでもその不安感を取り除き、安心して進学してほしいと思い、本校支援学級での中学校教師による授業と、実際の中学校への学校見学を実施した。



中学校教師による授業の様子

中学校の特別支援学級の見学

小中連携加配の制度で月に何度か訪問する中学校の先生と支援学級での交流授業では、中学校生活について、帰宅時間や部活動のことなど本人が気になることについて話を聞くことができた。また、中学校での授業見学では、進学した時のイメージがわいたようである。中学校の先生は怖いというイメージだったようだが、話しやすく、少しその不安が取り除けたようである。



自分ノートには、中学校に進学してからの目標ややりたいことが書かれていた。

【報告者の気づきとエビデンス】

○主観的気づき

☆自分で確認する方法を、段階を追って実践させていったことで、児童自らが生活習慣の改善を心がけられるようになったのではないかな。

☆メタ認知を少しずつ高め、自分自身でストレスコントロールする方法を身につけることができたことで、自己有用感が高まり、できることがふえてきたのではないかな。

☆調べる方法を知ることで、分からなければ調べればよいということに気づき、その安心感が学習への意欲を導いたのではないかな。

○エビデンス

<連絡帳の記録より>

4月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・友達とあったみたい。よくわかりませんが、難しいです。</li> <li>・〇〇には無理です。言葉がうまく出せないし。</li> </ul>
5月～7月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・友達と何かとあり、でも行ける所ができたことで落ち着いてきたかな。</li> <li>・何かあれば話ができて、自分で答えが出せる様になればいいな。</li> <li>・昨年の〇〇はどこへ?と思うぐらいに。</li> <li>・留守番してくれました。</li> <li>・宿題をしているのでびっくりしています。</li> <li>・人とうまくやっていく事が一番大切であって、自分の伝えたいことを伝えられればいいな。友達とあったとしても気持ち伝えられたらいいな。</li> <li>・下校も毎日一人で帰ってきます。遅いとドキドキしますが</li> </ul>
9月～12月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ここ数日は友達と下校したり。今を大切にしたいな。</li> <li>・「大丈夫。」と言って。本当に前と違って、友達と仲良くしたりケンカしたり、よくがんばっていると思います。</li> <li>・今家で料理を作ってくれています。</li> <li>・私が帰ってくる前に寝ていることが多くなりました。(母親仕事で22時帰宅のため)</li> </ul>

赤文字

・家庭において、できるようになったことがたくさん綴られている。



黒太字

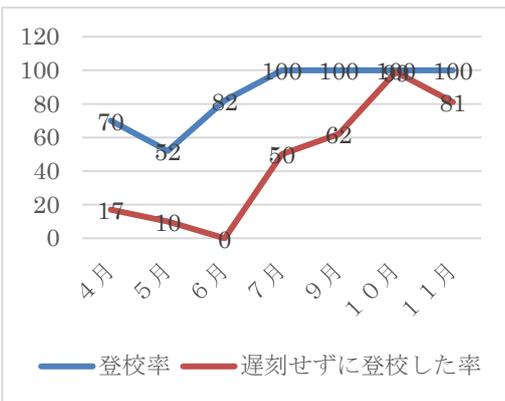
・学校における主に友達関係についての変化が綴られている。

青文字

・子どもの変化とともに、お母さんの子どもを信じて見守ろうとする気持ちの変化が表れている。



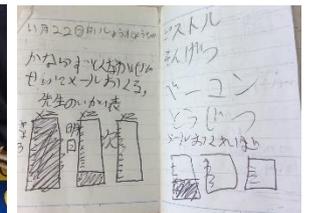
<出席簿の記録より>



連絡帳の記録より、4月当初には、友達とトラブルがあると、気持ちの整理を自分でつけることができないことが多かったが、しだいにトラブルがあっても「大丈夫。」と言える強さが出てきていることがわかる。また、子どもの変化とともにお母さんも子どもを信じようとする気持ちに変化してきていることが感じられる。出席簿の記録から、登校や遅刻せずに登校できるようになったことがうかがえる。これは、生活改善の取り組みと合わせて、少々のことではくじけない強さが彼自身についてきたことの表れだと感じている。

<自分で用意したメモ帳>

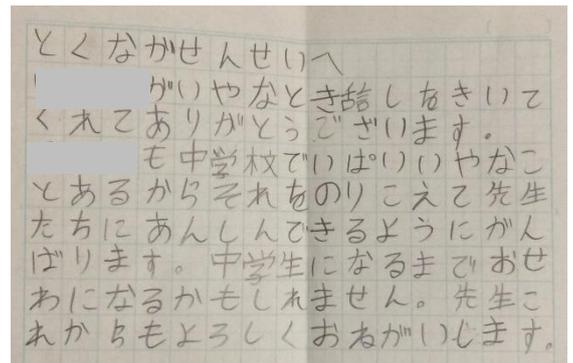
自分ノートは、教師と一緒に作成していったものだったが、いつの間にかメモ帳を自分で用意し、忘れたらいけない事柄について書いていた。また、気持ちの整理の仕方まで書いてあり、自分なりの解決方法を自分で見出せたのだと感じた。



自分で用意したメモ帳

<彼からの手紙>

中学校見学を終えた10月頃、少しずつ強くなり始めた彼が手紙を書いた。4月当初は、中学校進学への不安を口にしていた彼だったが、彼なりに中学校生活をイメージし、「中学校でいっぱいいいやなことあるかもしれないけど、それを乗り越えてみせるね。」という決意を手紙で伝えてくれたのではないかと感じている。



【今後の見通し】

- この1年、あらゆる面で成長してきたのは、自分でできる経験を積むことが彼自身の自信につながり、そしてそのことが、さらによりよい自分になりたいと努力させた結果ではないかと感じている。中学校進学に向けて、移行支援シートはもちろん、サポートカードの作成を行い、まずは彼自身を理解してもらえるような引き継ぎを行い、スムーズな中学校生活をスタートできるようにしていきたい。